

MITERUNE Annex A～I

MITERUNE — Ethical Social OS / 静止 AI 文明モデル
Annex A～I（日本国内向け・正式補遺文書）
DOI：10.5281/zenodo.17445531

Annex A

MITERUNE 基本構造（Ethical Social OS 概要）**

MITERUNE は、AI の判断権を停止し、
人間へ判断と尊厳を返すために設計された
世界初の “Ethical Social OS（倫理社会 OS）” である。

その根幹は以下の 3 層構造で成立する。

【1】 静止 AI レイヤー（AI は判断しない）

MITERUNE の AI は判断を行わず、
“兆し（煙）” の検知に特化した **寡黙なポーター** である。

感情やバイアスを持たず

判断・推論・価値観を提示せず

ただ淡々と「変化の累積＝煙」を人へ運ぶ

MITERUNE の AI は、
“判断する AI” ではなく “責任を返す AI” として設計されている。

【2】 Human-in-the-loop レイヤー（判断するのは人間）

AI が“知らせ”を運んだ先で判断するのは **必ず人**である。

判断

介入

見守り

最終決断

これらはすべて人間の領域であり、
MITERUNE はこの境界線を絶対に侵さない。

【3】 Social OS レイヤー（社会・自治体・管理者が 動く構造）

MITERUNE は、社会の誰もが灯を見捨てないように
判断フローと責任構造 を社会に組み込む OS である。

家族

施設職員

管理会社

自治体

支援機関

それぞれが「誰が動くべきか」を迷わない構造になっている。

MITERUNE は、AI のシステムではなく、
社会の責任構造そのものに倫理を埋め込むインフラ である。

Annex B

MITERUNE の目的（孤独死ゼロ × AI 倫理の空白を埋める）

MITERUNE の使命は 2 つの領域が同時に存在する。

【1】 社会課題：孤独死・無動作・緊急停止の“放置ゼロ”

日本では毎年 7 万人前後が孤独死・放置死 と推計されている。
その多くが、兆し段階で動けていれば回避可能だった。

MITERUNE は、
灯が消える直前に立ちのぼる “煙（兆し）” を静かに伝えるために生まれた。

孤独死

夜間無動作

障がい者の緊急停止

高齢者の異常

単身者の急変

長時間の非活動

これらの “気づかれないリスク” をゼロに近づける。

【2】 AI 倫理：日本と世界を悩ませる “AI 判断の空白” を埋める

AI に判断を任せる
＝責任の所在が分からない社会を生む。

これは日本企業が抱える深い構造問題である。

MITERUNE は次の空白を埋める

AI が判断したときの責任者不在

過度依存（便利の麻酔）が生む「寄り添いの消失」

AI 倫理の標準不在

判断権と尊厳の喪失

“本当の弱者保護” が不在の社会

MITERUNE は
技術のための AI ではなく、人間のための AI を実現する。

Annex C

MITERUNE 推奨環境（ハード／設置／接続）

MITERUNE はハードウェア企業と利害関係を持たない。
そのため 特定メーカーへのしがらみは一切ない。

ただし、

安定性

映像品質

運用のしやすさ

過去の連携データ

の観点から、現時点での推奨機材は TP-LINK 製カメラのみ。

【1】 ハード開発ができない企業へ：紹介支援を行う

MITERUNE はハードを販売しない、必要な場合は、ライセンス企業が
開発・設置可能な会社を紹介・接続 する。

ただし：

設置業者の手配は “設置台数（物件数）” に比例して膨大となるため

大量導入の場合は、ライセンス企業にて調整・管理

MITERUNE 本部は現場運営に入らず、文明レイヤーに専念する。

【2】 接続仕様

動作検知

非動作累積

MITERUNE 静止 AI モデルとの連携

kintone／LINE WORKS／メール通知対応

通知フローは導入企業ごとにカスタム可能

Annex D

MITERUNE 静止 AI モデル（8-2-2 方式の解説）

MITERUNE の根幹となるアルゴリズム
「8-2-2 方式」は以下の通り

【1】 8 時間：揺らぎ（正常揺らぎの最長値）

日常活動が“止まる”最長の揺らぎ

就寝・外出・活動停止

平均高齢者の活動データに基づく

【2】 +2 時間：変動確認（微調整ゾーン）

再び動くかどうかの変動

揺らぎと異常の中間領域

個別家庭の生活リズムに合わせて調整可

【3】 +2 時間：最終判定（AI による判断ではなく “累積”）

合計 12 時間で通知

AI が判断せず、時間累積だけで「兆し」を伝達

※設定値は状況により変更可能

単身者・障がい者・高齢者・夜勤などに応じて
ライセンス企業が標準設定を提案する。

Annex E

通知フロー（人が判断する構造）

通知は MITERUNE の本質そのもの。

AI が判断せず、
一定の変化の累積（煙）を人に届ける。

通知の流れ

AI が変化の累積を検知

kintone 等へ情報送信

LINE WORKS ・メール等へ自動通知

第一確認者の人が判断

状態確認へ移行

必要に応じて家族・管理会社が行動 介入または連絡

MITERUNE は、
“気付くべき瞬間に気付ける社会” を作るための OS である。

Annex F

MITERUNE の倫理基準 / UNESCO 整合**

MITERUNE は
UNESCO「AI 倫理勧告（Recommendation on the Ethics of AI）」の
主要原則と完全に整合。

以下を制度として内包する

人間中心性

判断権の保持

弱者保護

プライバシーと尊厳

公平性

説明責任

透明性

社会的包摂

兆しの早期検知による生命保護

MITERUNE は倫理を“機能”としてではなく
構造（OS）として実装 する、日本初の文明モデルである。

Annex G

MITERUNE の社会実装例

高齢者住宅

サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）

マンション管理

生活保護受給者の見守り

単身赴任者

障がい者支援

夜勤者

事故リスクのある労働現場

成果：

発見者の心労負担を大幅に軽減

入居者・家族の精神負担を軽減

クレーム減

施設選別における競争力向上

管理会社の業務効率

社員の離職防止

ES 向上（Employee Satisfaction）

Annex H

MITERUNE 導入による企業メリット（Blue Ocean）**

MITERUNE は世界的に見ても **完全な Blue Ocean（未踏市場）** である。

企業にとっての主なメリット：

【1】 発見者・管理者・家族の心労を劇的に減らす

最も大きなメリットは、孤独死や放置死が発生した際に背負う

ショック

トラウマ

罪悪感

仕事の中断

精神疲労

これらの 心の負の蓄積を大幅に減らす こと。

これは金銭換算不能の価値。

【2】 企業の ESG 評価を強化する（特に S 領域）

世界の ESG 投資は

「弱者保護」「倫理」「デジタルケア」を必須にしている。

MITERUNE の導入は、S 領域で極めて高い評価につながる。

【3】 事故・放置死によるブランド毀損を防ぐ

孤独死発生後の原状回復

集客低下

SNS 炎上

入居者離れ

これらを未然に防ぐ。

【4】 国内初・倫理 OS の先行導入企業になれる

MITERUNE は文明モデルであり、
導入企業は **日本の倫理インフラの第一陣** となる。

Annex I

MITERUNE ライセンス体系（最終版）

【1】 MITERUNE は商標を取得しない（哲学的理由）

MITERUNE は“倫理を商標ビジネスに落とさない”ため、
現時点で商標出願を行わない、ライセンス獲得企業が取得

MITERUNE は
文明 OS であり、ブランド商品ではない。

必要な場合のみ
防御的観点で検討する。

【2】 本体ライセンス（1 国 1 社）

その国の倫理・社会・AI 基盤を担う
リーディングカンパニー 1 社のみが取得可能。

MITERUNE 名称・OS 構造の使用

区分利用企業への貸与

国の倫理基盤としての普及

UNESCO 整合の維持

AI 判断停止モデルの普及

【3】 区分利用（Sub-License）＝ ライセンス企業からの「貸与」

区分利用企業は：

MITERUNE の一部機能のみ使用

名称・哲学の扱いは禁止

技術としての見守りに特化

AI 倫理が怖い企業でも参入しやすい

料金はライセンス企業が設定（本部は関与しない）

【4】 M&A（理念承継型）

MITERUNE 文明の全構造を
世界規模で継承できる企業 1 社に限定。

技術

哲学

AI 倫理

UNESCO 整合

世界展開能力

すべてを条件とする。

【5】 ライセンス締切（延長後）

2026 年 2 月 14 日（最終）